



# 大樹のこころ

## 今、別れの時

卒業証書授与式は、1年間の学校行事の中で最も大切なものであると言われます。自分も長い教員人生を振り返ると、卒業式での感動的な場面が色鮮やかに蘇ります。初めて卒業学年を担当した時は、卒業を前にして子供と別れるのが辛くて、一人教室で泣いていたことを思い出します。本校の6年生の担任の先生や支援クラスの先生も同じような感慨があるのではと思っています。

3月19日(火)の卒業の日。朝には卒業を祝福するかのように虹がかかりました。卒業式の前に行われるのが1年生から4年生までが参加するお別れ式です。本来ならば全校児童が卒業式に参加し、6年生をお祝いしたいところですが、体育館に全員入ることができません。卒業式の代わりとして行われるのがお別れ式です。運動場で実施されたお別れ式は、心地よい緊張感がありました。式に参加した1年生の子も「お世話になった6年生」とのお別れを心から悲しんでいる様子が伝わってきました。4年生以下の子供たちも、お別れ式を通して「人との別れの辛さ」を感じ取ってくれたと思いました。

そして卒業式です。卒業生一人ひとり、証書授与の際に、自分の目をしっかりと見てくれます。真っ直ぐな眼差しに、ちょっとうるうるしてしまいます。また小さな声で「おめでとう」と伝えると「ありがとうございます」と返してくれる子もいます。形だけでなく心が通じたような気がして感動します。校長式辞では、今年の卒業生の良さとして「心に芯があること」を紹介していきました。学校において、楽しむばかりでなく部活動や行事、日々の生活の中で「ちょっと無理して頑張る」ことが、子供の心の中に一本の芯を作り上げていきます。今年の卒業生には、その芯が多く見られたことを述べていきました。

そして「お別れの言葉」です。卒業生と在校生が呼びかけと歌を歌います。在校生は卒業生へのはなむけの言葉を、卒業生は6年間の思い出や感謝の言葉を述べます。呼びかけの合間に歌が入ります。5年生が歌うのは「大切なもの」。きれいなハーモニーが体育館に響き渡ると、一気に情感が揺さぶられていきます。それに応えるように卒業生が「旅立ちの日に」を歌います。必死に歌う彼らの姿に、視界がぼやけていきます。式を終え、退場する卒業生の後ろ姿が大きく見えました。

教室で仲間や担任の先生との別れをした後、見送り式です。本校では校内にある大樹寺の総門が、卒業生のために開かれます。その総門を通して、6年生は旅立っていきました。彼らの幸せを願わずにはいられません。頑張れ！第77回卒業生。大樹寺小はいつまでもあなたたちの応援団です。

